

◆ 吐田郷の古民家改修に挑む

米田 巧



リビングに出た特徴的な梁

昨年、私は友人家族が住む昭和初期に建てられた木造の古民家の耐震改修を含む改修工事の設計とその監理の仕事に携わる機会を得ました。この建物は、金剛・葛城山の麓の水のきれいな水田に囲まれた地域に農家の住居として建てられ、当時の間取りは田の字型の四間取りに通り庭を挟んでオクドサンのある炊事場と農作業をするシモミセと、屋根裏のツシで構成されたこの地域の農家の典型的な形態を持つものでした。

友人は結婚を機にオクドサンやシモミセを取壊して、リビング・キッチン・ダイニング及びトイレ・洗面脱衣室を改修しましたが、その改修からも20年以上が経過しています。子供の成長と共に生活スタイルも変わったため、当時は我慢できた長い動線や建物内の段差や隙間風などの問題箇所を改善し、四間取りの中で一番狭く日当たりの悪い所にあった四畳半の居間を日当たりの良い快適な部屋にすることを目標に設計を進めました。

工事予算内に収めるために、内外とも改修するところと、そうでないところをつくらざるを得なかったため、全体として違和感の無いようにすることを心掛けました。

L D K 部分に設けた特徴的な縦長の白い上げ下げ窓はどちらかといえば、洋風な雰囲気を持ちますが、外壁に焼杉を大壁風に張ることで日本瓦の屋根をもつ大和の古民家のつくりともある程度、バランスを取ることが出来たのではないかと自負しています。

今回、L D K の床に奈良県産の杉の厚板、浴室の壁・天井にヒノキの赤身材、窓の額縁に杉の無垢材、新たに設けたドアや引き戸には国産杉で出来た積層板を使うことで、改めて木の持つ木目の風合いや質感、におい、肌触りが心安らぐものであり、癒されるものであると再認識できました。

昨年、奈良・町家の芸術祭「HANARART2012」に地元の実行委員として参加して以来、古民家に触れる機会が増え、またこのように仕事をやる機会を得て、歴史を刻んできた建物の重みと魅力に惹かれ、今まで以上に建物を大切に考えて行きたいと思うようになりました。



ヒノキの香りの浴室



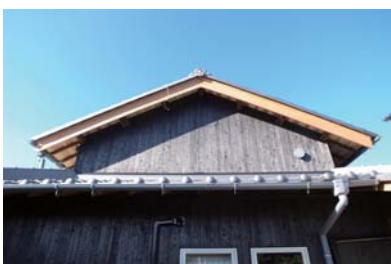
トイレの小窓



釘を使わない木組み



ホールの天井



焼杉が特徴的な外観



キッチンからダイニング・リビングを望む

◆ ホタルが育つまちづくり

井戸田 精一

縁あって私が大阪で暮らして、間もなく、16年になります。

建築の専門家になるため、大学で「自然環境保護センター」を設計したのが、30年前、最初にやりたいと思って描いた計画が、一生のテーマになっているようです。

ホタルは、その地域の自然にある水の環境を知るバロメーターです。

私が暮らしているまちでは、地域住民で1999年から「ほたるの里づくり」に取り組み、少しずつ自然の川にホタルが増えはじめています。

川づくりの発端は、下水工事するため、自然石の護岸が残る地元の川が、コンクリートにされると、ホタルの生育できる自然環境が失われるという心配からです。そこで、周辺地域の方々が、生態系の調査やホタルが生育できる環境づくりがはじまりました。私の役割は、川の護岸工事を自然のまま、復元できるようにするため、「川づくり勉強会」を行って、多自然型川づくりのイメージを地域の方々に説明し、自然のままの川の現状模型をつくるサポートをすることでした。そして、偶然、滋賀県守山市に引っ越してきた水質調査の専門家である友人から守山市の取り組みを記したマニュアルを送っていただきました。

少しずつ、川づくりの活動が広がり、地域住民のボランティアによって、2001年8月から地盤模型を作りはじめ、夜、神社に集まって検討会を行いました。そして、2002年1月には、守山市を参考に地元の小中学校に川づくりや環境教育の取り組みの理解が得られ、3月には行政にまちづくり提案ができました。

その後は、行政が2002年末から2004年4月まで自然石護岸に川が修復されました。工事が完了すると、子供たちと一緒に地域住民がホタル池で育てたカワニナとホタルの幼虫を放流する川開きを行いました。

今年でホタルが飛ぶようになって3年が過ぎ、久々に川そうじに参加しました。周辺地域では、一斉清掃日で周知され、住民の方々が、積極的にきれいな環境づくりに参加されていることを知り、私自身は新たなまちづくりがはじまったようにも感じました。



神社での検討会の様子



ホタルの幼虫を観察する様子



顕微鏡で見るホタルの幼虫



川開き



今年の川の様子



行政への提案の様子

◆ 編集後記

No.14の記事は『古民家改修』と『ホタルが育つまちづくり』でした。

どちらも、一度失われると取り戻すことが難しいものです。合理性・経済性が重視されることが多い中、近年では人が生活する上で「今あるもの」や「古くからあるもの」を活かし大切にするという価値観が見直されつつあります。

(何左 昌範)

◆ 編集メンバー

井戸田 精一 井戸田精一アトリエ

米田 巧 TAKUMI建築設計室

辻 祐司 辻 建築設計室

何左 昌範 ささりな計画工房

橋爪 恒平 atelier nest-アトリエネスト-

松村 泰徳 松村泰徳建築事務所

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局 / 天満スタジオ
大阪市北区天満4丁目11-8
工技研ビル2F
TEL : 06-7501-4517
FAX : 06-7503-4773

奈良事務局 / 松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル 2 F - W E S T
TEL : 0745-69-5938
FAX : 0745-60-6524
E-mail: contact@ym-arc.jp
URL : http://www.ym-arc.jp

Copy right 2010-2013 Architect Caravan All rights reserved

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。新築・リフォームに限らず住まい全般のご相談等ございましたら、遠慮なく左記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。